



松本市重要有形民俗文化財

松本城下町の舞台 シリーズ③

「本町五丁目 舞台の由来と特徴」



現在の舞台

制作者は不詳。
構造の特徴は、三輪置台型二層構造で、上層に刳高欄型檣を載せている。

飾り人形は、柿本人麻呂(二代目)。

装飾は、木彫刻ではなく、鋳金具は高欄擬宝珠八双金具。

塗りは、上層は黒漆塗り仕上げ。下層は研出漆塗り。

全体の特徴としては、本来屋根がない置台型の舞台形式で簡素ではあるが、優雅な御



柿本人麻呂像

こうして、皆で一所懸命考へ、取り組み修復完成させた美しい舞台を前に、それまで協力、助成をいただいた多くの方々に感謝しつつ、これを大切に、次代へと引き継ぐ決意を新たにいたしました。

平成27年1月1日現在

世帯数	: 808戸(+27)
人口	: 1500人(+61)
男	: 717人(+36)
女	: 783人(+25)

所車型の大きな車輪が印象的な、典雅な舞台です。

「人形について」
長い間、菅原道真と思われる人形が、専門の先生方の調査の結果をいただいたところ、実は三十六歌仙の一人である柿本人麻呂さんでありました。

製作は江戸末期で、歴史的文化的価値が極めて高い人形であることが分かりました。

しかし傷みがひどく、修復困難。予算的にも無理な上、管理保管上の問題等も考慮し博物館へ寄贈することとして、舞台にはレプリカで対応することになりました。そして、出来上がった人形は、同じ姿で、輝くばかりでした。

博物館には、これまでに本町五丁目より寄贈した宝船、七福神と並び、又新たな宝が加わることとなりました。

そば打ち講習会



11月29日

毎年大人気の講座です。今年も美味しく打てました！

松本あめ市

1月10日・11日



今年も大にぎわいの人出でした。迫力の塩取合戦！

親子餅つき大会



12月14日

まずは大人がお手本を…子どもたちも興味津々。

松本あめ市

1月10日・11日



福だるま、たくさん売るぞー

第一地区 行事あれこれ

松本山雅J1昇格祈念 登城パレード

12月7日



選手が舞台に分乗してのパレードは松本ならでは！本町通りから松本城までの沿道はたくさんの人であふれ、関心の高さがうかがえました。

「行事など情報をお寄せください。写真を掲載させていただきます。」

第一地区

市政まちなかど
トークの報告

(Qは質問、Aは回答)

去る11月5日、Mウイングにて、第一地区市政まちなかどトークが3年振りに開催されました。当日は石塚町会連合会長始め多くの参加者があり、市側からは菅谷市長、坪田副市長を始め部課長の出席がありました。

始めに「第一地区の活動の紹介」があり、その後、地区の課題について意見交換を行いました。主な内容は、次のとおりです。

Q 災害時におけるMウイングの避難場所と医療救護所の見直しについて

寿岳流信濃吟詠会
宗家会長

飯森寿岳さん(中町1丁目)

平成26年11月9日に第46

回全国吟剣詩舞道大会にお

いて、吟剣詩舞大賞を受賞

されました。長野県下では

初めての受賞者とのこ

とです。お

めでとうご

ざいます。



授賞式にてご家族と



まちなかどトーク

A 他の市指定避難場所への誘導及び市駅前会館を市指定避難場所にする検討を行う。

Q 民間企業との防災協働化の推進について

A 市災害時登録制度を実施中。第一地区企業の登録推進と協力について依頼する予定。

Q 市の主要防災拠点の第一地区内への設置について

A 現時点で、設置計画はない。備蓄物資、倉庫の充実を検討。



番外編2

日本中のそば屋が「毎日そば」

の準備に追われる師走の末の

事です。私が所属する松本市消

防団の分団詰め所に、手打ちそ

ばの差し入れが届けました。

年末の防災警戒は、その年最

後の重要な消防団の活動です。

深夜遅くまで巡回、待機が続

討したい。

Q 行政防災窓口の一本化について

A 市危機管理部が中心になり、調整する。

Q 第一地区の専用部屋・単

独施設の設置要望について

A 現時点では、現状のMウイング施設の予約利用で、ご理解願いたい。

Q イオンモール東松本店の出店計画の現況及び市の対応について

A 市で月1回イオン本部との話し合いを継続中で、適正規模、回遊性の協力を要請している。交通渋滞問題については、現在、建設部で交通シミュレーション動画を作成中。

Q 商店街衰退化の懸念及び助成策の検討について

A 対抗案として魅力ある店

き、各自の仕事を終えて集合した分団員達の疲れもピークに達する頃、分団の調理場は熱い湯気につつまれました。

第一地区には多くのそば屋

があり、その身内が消防団に関

わっている事も稀ではありません。

飲食店という、火を扱う

職業という事もあつてか、親子

何代にも渡って尽力されたお

店もあります。詰め所に届いた

そばも、分団の仲間が営むそば

屋からの心遣いでありました。

舗づくりや、市の主要イベントの中心市街地開催に取り組んでいる。店舗への補助制度については、具体的内容は決まっていない。

今回の市政まちなかどトークをきっかけとして、今後も、地区の要望を町会連合会や地域づくりセンターを通して、市の関係課に随時照会または依頼をしていく予定です。

(地区地域づくりセンター)



新そばの一番おいしいこの時期に、手打ちの、爽やかな淡いグリーンのそばを仲間と囲む幸せ。身内、仲間内にそば屋が多いこの土地の、年末の特権のように感じます。

となく、観光客相手に向かちがちな松本市内のそば屋ではありますが、地域に根差したお店も数多くあるのです。そんな身近なお店を、今年も少しずつご紹介できたらと思います。

電車通り

日本テレビ系列で、毎年正月に「はじめてのおつかい」という番組を放映する。

幼稚園に行くか行かないかという幼い子ども達が、親の設定した責務を果たす。

子どもと番組を見ていた時、「私の初めてのおつかいはいつ？」と聞かれた。

いつだったろう真剣に考えたが、テレビに出てくる子ども達のようなドラマチック且つ覚悟を持ったおつかいはさせたことがないということに気が付いた。

番組に出る子ども達は、ある意味危険からは大きく隔離されている。多くのスタッフに見守られての撮影だからだ。

普通の状況で、3、4歳の子どもをおつかいに出すというのは、現実的にはかなり難しい。

地域の大人と子どもが、たがいを認識し、言葉を交わす機会は、本当に少なくなつた。

空洞化する街中で、子ども達がおつかいに行ける世の中を実現するためには、なにをすればいいのだろうか。

その答えが見つければ、街は再生されるのかもしれない。

